

建築士会東海北陸ブロック会 青年建築士協議会・女性建築士協議会
 平成30年度ブロック亀山大会
 まちなみ・保存と活用

～三つの「繋がり」が重なる三重～



【開催概要】

日時：平成31年2月23日（土）～24日（日）

申込み締切：平成30年12月28日（金）

主会場：亀山市文化会館（三重県亀山市東御幸町63番地）

問い合わせ先：（一社）三重県建築士会事務局
 (059-226-0109)

定員：200名程度

参加登録料：青年委員会 13,000円 女性委員会 13,000円
 （共に宿泊、朝食、懇親会、見学科含む）

主催：建築士会東海北陸ブロック会

青年建築士協議会・女性建築士協議会

【大会スケジュール】

【1日目】	【2日目】
（青年建築士協議会・女性建築士 共通）	（青年建築士協議会）
受付 11:30～12:00	ワークショップ 9:00～11:30
開会式 12:00～12:40	（女性建築士協議会）
（青年建築士協議会）	会議 9:00～11:30
報告会 13:00～13:55	（青年建築士協議会・女性建築士協議会）
見学会 14:35～17:15	閉会式 11:45～12:30
ホテルチェックイン 17:35～18:45	解散 12:30
（女性建築士協議会）	
見学会 13:25～16:40	
分科会 16:40～17:40	
ホテルチェックイン 18:00～18:45	
（青年建築士協議会・女性建築士 共通）	
懇親会 18:45～20:40	



■ 東海北陸ブロック青年建築士協議会とは？

この協議会は、青年建築士に共通の問題を協議し、建築士としての業務上の進歩改善や建築士の品位の向上を図り、若い力を結集し、進展する社会に対応する魅力ある建築士会の発展に貢献することを目的としています。

合言葉は『東海・北陸はひとつ！』

■ 協議会メンバーとは？

(公社)愛知建築士会 (公社)岐阜県建築士会 (公社)静岡県建築士会
 (一社)三重県建築士会 (一社)石川県建築士会 (公社)富山県建築士会
 (一社)福井県建築士会 の青年建築士

■ 具体的にどんなことをやってるの？

各県の青年建築士の代表が集まって、年3回の会議を行っています。

(各県事業報告・情報交換・ブロック運営・事業・広報等)

また、東海北陸7県の青年と女性建築士がひとつの場所に集まり

年1回のブロック大会を行っています。

ブロック活動内容(地域実践活動の発表会、まちづくり見学会、体験ワークショップ全国大会、連合会事業への参加など)



申込方法：F a xにて必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。

参加申込者には、後日各県青年委員長よりスケジュールについてご連絡させていただきます。

F A X : 059-225-4281 一 般 社 団 法 人 三 重 県 建 築 士 会 事 務 局

氏名		TEL	
住所		FAX	
		E-mail	
勤務先		所属県・支部	
ワークショップ テーマ	① 定住・移住 ② 空き家 ③ 観光 ④ 保存・防災 ⑤ 誇り・子供達へ		

※申し込み締め切り日：平成30年12月28日(金)
 ※大会登録費の振り込み期限：平成31年1月25日(金)
 ※ワークショップの参加希望テーマに○印を付けてください

建築士会東海北陸ブロック会 青年建築士協議会・女性建築士協議会
平成 30 年度 ブロック亀山大会 企画書

一般社団法人 三重県建築士会青年委員会
ブロック亀山大会 実行委員長 岡本 稔克

【テーマ・趣旨】

【大会テーマ】：まちなみ・保存と活用 ～三つの「繋がり」が重なる三重～

【大会趣旨】

東海道五十三次の 47 番目の宿場町として栄え、今なお当時の雰囲気が残されている関宿。

かつては、東の追分からは伊勢別街道、西の追分からは大和街道が分岐し、交通の要衝として栄え、様々な繋がり歴史を作り、現在は地域住民・行政の繋がりによって町並み保存が実践されています。

1984 年には、三重県で初となる国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、その後も歴史性と親愛性を基準に「東海道の宿場町・関宿」として「日本の道 100 選」にも選ばれています。

また、「街道を抱く木の学び舎」として建設された関中学校は、中部建築賞・公共建築賞を受賞し地域に根差した公共建築物として高い評価を受けています。

その関宿にもまちなみを保存・活用する上で、いくつもの課題があります。

それらに上がる課題は、地域特有のまちなみでありながら各地域共通の課題として重なるところが多くあると考えられます。

多くの建築士が集い、1 つのまちなみに対して建築士と地域住民が意見を交わすことによって関宿の課題だけではなく、各地域のまちなみにも繋がる意見が出ると考えられます。

今大会は、この亀山の地で、見学会・ワークショップ・交流を経て、建築士としての三つの繋がり「地域・建築士・歴史」の重要性を再認識し研鑽を積み、これからの建築士としての未来に繋がる大会を目指します。

【日 時】 平成 31 年 2 月 23 日（土）12：00～20：40
24 日（日） 9：00～12：30

【会 場】 亀山市文化会館 （三重県亀山市東御幸町 63 番地）
開会式・全体会・閉会式 ： 1 階 大ホール
ワークショップ ： 1 階 中央コミュニティセンター

懇親会： ドライブイン あんぜん文化村 （三重県亀山市太岡寺町 1170）

女性委員会 1 日目会議：亀山市関文化交流センター（三重県亀山市関町泉ヶ丘 1011-1）
2 日目会議：亀山市文化会館 2 階 会議室

【大会概要】

三重県亀山にて「まちなみ・保存と活用」をテーマに東海北陸ブロック会青年建築士協議会・女性建築士協議会ブロック亀山大会を開催します。

1日目には、関宿・関中学校の見学をして頂きます。また、全体会で連合会活動やブロック協議会活動、各県活動報告を聞いて頂きます。2日目には、全県混合のグループに分かれて、1日目の見学で学んだことを生かしてワークショップを行います。

【大会次第】

ー1日目ー〔青年建築士協議会・女性建築士協議会 共通〕

- | | | |
|-------|-------------------|------------------------|
| 【受付】 | 11:30～12:00 (30分) | 12時会場集合 (亀山市文化会館 大ホール) |
| 【開会式】 | 12:00～12:30 (30分) | 開会の言葉、挨拶、来賓挨拶、趣旨説明 |
| 【移動】 | 12:30～13:00 (30分) | 休憩、移動 |

〔青年建築士協議会〕

- | | | |
|-------|----------------------|--|
| 【報告会】 | 13:00～13:55 (55分) | (亀山市文化会館 大ホール)
各県事業報告、連合会青年委員会事業報告、
東海北陸ブロック事業報告 |
| 【移動】 | 13:55～14:35 (40分) | 休憩、移動 |
| 【見学会】 | 14:35～17:15 (2時間40分) | 亀山市関中学校・関宿見学、自由散策 |
| 【移動】 | 17:15～18:45 (1時間30分) | 移動、ホテルチェックイン |

〔女性建築士協議会〕

- | | | |
|-------|----------------------|---------------------------|
| 【移動】 | 13:00～13:25 (25分) | 移動 |
| 【見学会】 | 13:25～16:40 (3時間15分) | 関宿・亀山市関中学校見学、自由散策 |
| 【分科会】 | 16:40～17:40 (60分) | (亀山市関文化交流センター 会議室)
講演会 |
| 【移動】 | 17:40～18:45 (1時間05分) | 移動、ホテルチェックイン |

〔青年建築士協議会・女性建築士協議会 共通〕

- | | | |
|-------|----------------------|---------------------------------|
| 【懇親会】 | 18:45～20:40 (1時間55分) | (ドライブイン安全文化村)
アトラクション、歓談、中締め |
|-------|----------------------|---------------------------------|

ー2日目ー

- | | |
|------------------------|---|
| 【青年建築士協議会】 | (亀山市文化会館 1階中央コミュニティセンター) |
| 【ワークショップ】 | 9:00～11:30 (2時間30分) 関宿を未来につなぐワークショップ |
| 【移動】 | 11:30～11:45 (15分) 移動、休憩 |
| 【女性建築士協議会】 | (亀山市文化会館 2階会議室) |
| 【会議】 | 9:00～11:30 (2時間30分) 会議 各県活動報告等 |
| 【移動】 | 11:30～11:45 (15分) 移動、休憩 |
| 【青年建築士協議会・女性建築士協議会 共通】 | (亀山市文化会館 大ホール) |
| 【閉会式】 | 11:45～12:30 (45分) 新旧運営委員長挨拶、次年度ブロック大会案内、幹事所見、
閉会の言葉、記念撮影 |
| 【解散】 | 12:30 各県自由解散、全プログラム終了 |

■内 容：関宿伝建地区の町並みの見学(散策)と亀山市立関中学校にて施設見学を行います。

全国で20番目・三重県では初となる国の伝統的建造物群保存地区にも選定されている東海道五十三次の47番目の宿場町である関宿で保存・活用(生活)されている木造建築物など歴史的町並みと、「街道を抱く木の学び舎」として建設された亀山市立関中学校(中部建築賞・公共建築賞 受賞)を見学して頂きます。

(※見学ルートは前後する場合があります。)

なお、関宿はまちづくり活動を行っているNPO法人やボランティアガイドによる解説並びに亀山市立関中学校は市教育委員会や学校関係者からの施設案内があります。(予定)



【関宿の町並み】

写真:まちなみ文化財室提供



【亀山市立関中学校】

■タイムスケジュール

乗車バス	バス A号車		バス B号車		バス C号車	女性	
見学グループ	A 班	B 班	C 班		D 班	E 班	
14:05	館内移動 (亀山市文化会館 → 駐車場)					12:55	館内移動
14:10 出発	バス乗車・移動(亀山市関支所駐車場)					13:00 出発	移動(車)
14:35(45分)	関中学校	関中学校	14:35(80分)	関宿	関宿	13:30(85分)	関宿
15:20(10分)	現地移動 (関中学校→関宿)		15:55(10分)	現地移動 (関宿→関中学校)		14:50(30分)	関宿(自由散策)
15:30(80分)	関宿	関宿	16:05(45分)	関中学校	関中学校	15:20(10分)	移動(徒歩)
16:50(25分)	関宿(自由散策)					15:30(45分)	関中学校
17:15(5分)	現地移動 (関宿 → 亀山市関支所駐車場)					16:40(60分)	分科会
乗車バス	バス A号車		バス B号車		バス C号車		
17:20 出発	バス乗車・移動					17:40 出発	移動(車)
17:30 到着	ホテルルートイン					18:00 到着	ホテルルートイン

見学地概要

旧田中家住宅

指定種別 市指定有形文化財(建造物)

主屋および離れ(塀含む) 1棟

土蔵 2棟

付属屋 3棟

概要

関宿新所で江戸後期に栄えた「田中三家」のひとつ、平成20年1月に10代目田中稲蔵氏から市に寄贈された。

主屋は間口6間半、奥行7間の規模で、切妻平入棧瓦葺きで、この東に間口2間、奥行3間半の離れ座敷を繋ぎ、座敷と街道の間に前庭と塀を設けている。

江戸時代に建築された関宿の質の高い町家の代表例と言え、幕末から明治初期の屋敷の様子が全体として良好に残されており、大変貴重な建物です。

地蔵院

指定種別 国重要文化財(建造物)

員数 3棟

構造

本堂：寄棟造、本瓦葺

愛染堂：寄棟造、本瓦葺

鐘楼：切妻造、本瓦葺

古くから関の地蔵と呼ばれて信仰されてきた。創建については判然としないが、元禄8年(1695年)成立の『地蔵院略縁起』には天平13年(741年)行基(ぎょうき、奈良時代の僧侶)によって創建されたと伝える。享保3年(1718年)成立の『関地蔵菩薩瑞像記』には大同元年(806年)、最澄の弟子により地蔵堂が建てられ、久冠山宝蔵寺と号したとある。現存する建物は、愛染堂が寛永7(1630)年、鐘楼が同21(1644)年の建立、本堂はこれより遅れ元禄13(1700)年に落成している。また本堂も地元の大工によって施工された建物であるが、質がよく、特に内陣は荘厳で、江戸時代中期の特徴を良く示している。なお、棟札並びに建立の事情等を記した造営文書も附指定されている。

旧落合家住宅

主屋

1 棟

概要

間口 4 間半、奥行き 7 間の切妻平入棧瓦葺きで二階は大壁しっくい塗籠めで虫籠窓を設けている。

関宿の一般的な町家の建物で、改修工事では限界耐力計算法を用いて構造補強を行っている。



百六里庭

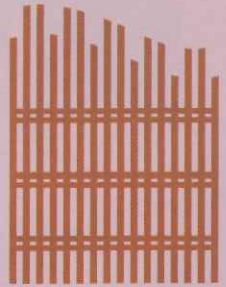
三重大学浅野研究室と関宿により伝建地区内の空き地に設けられた防災公園

東海道関宿ポケットパーク・デザインワークショップ(1996～1997 年)として、三重県内の公共施設を計画策定の段階から公募メンバーによる協働で取り組んだ初めての事例。

ワークショップには近隣大人から子供まで参加して行われた。日常時にも使いやすい防災公園、防災・景観・歴史・バリアフリーを考慮して計画されている。

百六里庭と言う名称も公募で決定されている。(関宿が江戸から 106 里余りの位置にあることから)

ちなみに大会要旨に載せている写真はここから地藏院へ向って撮った写真



関まちなみ資料館



関まちなみ資料館は、江戸時代末期に建築された、関宿を代表する町屋建築の一つです。

町屋で使われていた道具類や、関宿に関する歴史資料などを展示しています。また、関の文化財や、町並み保存事業による関宿の町並みの移り変わりなども知ることができます。

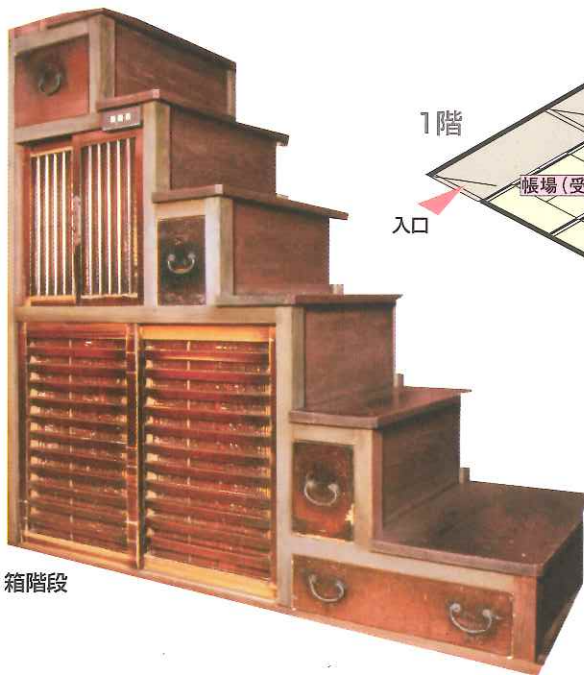
亀山市・市民文化局文化振興局(まちなみ文化財室)



保永堂版「東海道五十三次 関」：歌川広重 画



帳場

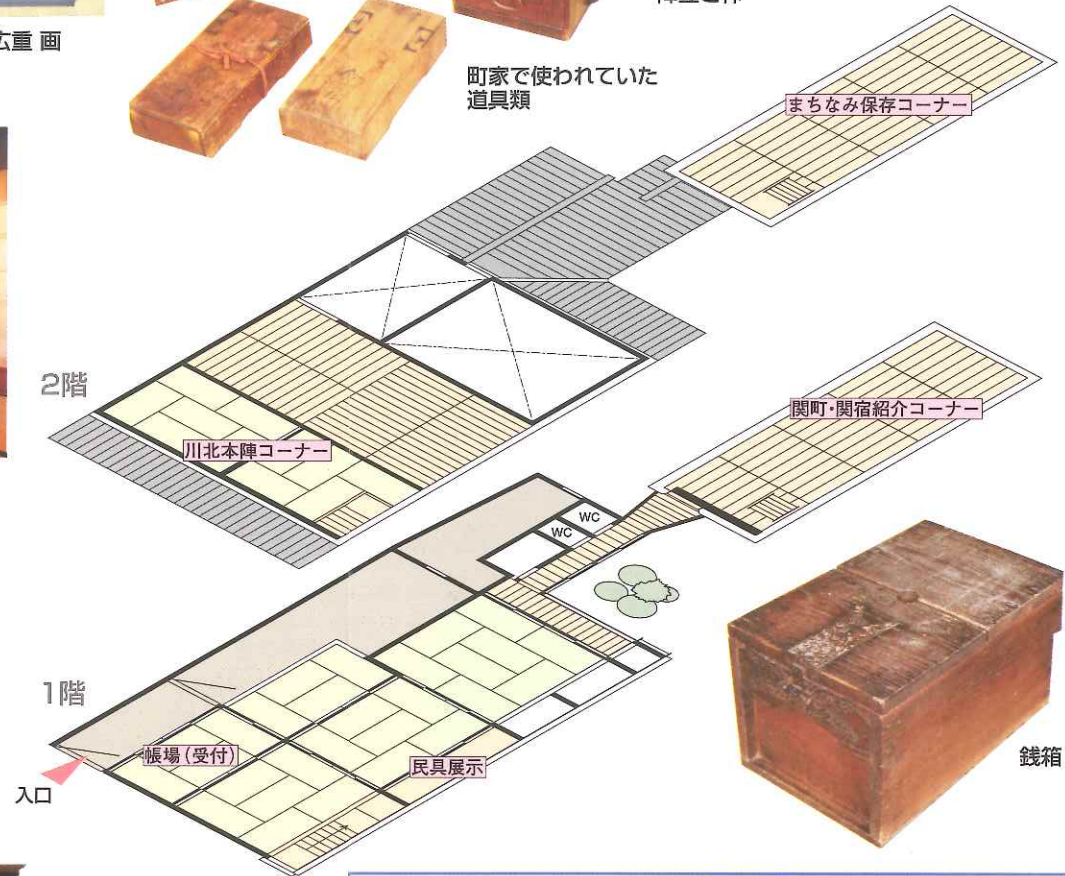


箱階段



町家で使われていた道具類

陣笠と袴



錢箱



交通案内 ●鉄道：JR関西本線関駅より徒歩10分
●マイカー：名阪国道関インターより5分

入館料 ◆ 大人=300円(250円)
小・中・高=200円(150円)
※()内は30名以上の団体料金
※旅籠玉屋歴史資料館・まちなみ資料館共通
開館時間 ◆ AM9:00~PM4:30
休館日 ◆ 月曜日
(月曜日が祝日又は振替休日にあたる時は、その翌日)
年末年始(12月29日から1月3日)

関宿旅籠玉屋歴史資料館
〒519-1112 三重県亀山市関町中町444の1
TEL 0595-96-0468 FAX 0595-96-0469
関まちなみ資料館
〒519-1112 三重県亀山市関町中町482
TEL 0595-96-2404

お問い合わせ先
亀山市・市民文化局文化振興局(まちなみ文化財室) TEL:0595-96-1218

Hatago Museum Tamaya



玉屋

関宿旅籠玉屋
歴史資料館



「関で泊まるなら鶴屋か玉屋、まども泊まるなら会津屋か」

関宿旅籠玉屋歴史資料館は、市文化財に指定されている江戸時代の貴重な旅籠建築を修復し、旅籠で使われていた道具類、浮世絵・掛軸などの美術品類、旅に関係する歴史資料などを展示して、江戸時代に栄えた旅籠の姿を再現しました。関宿の歴史的な町並みとともに、訪れる皆さんを江戸の宿場の世界へと誘います。

亀山市・市民文化部文化振興局(まちなみ文化財室)

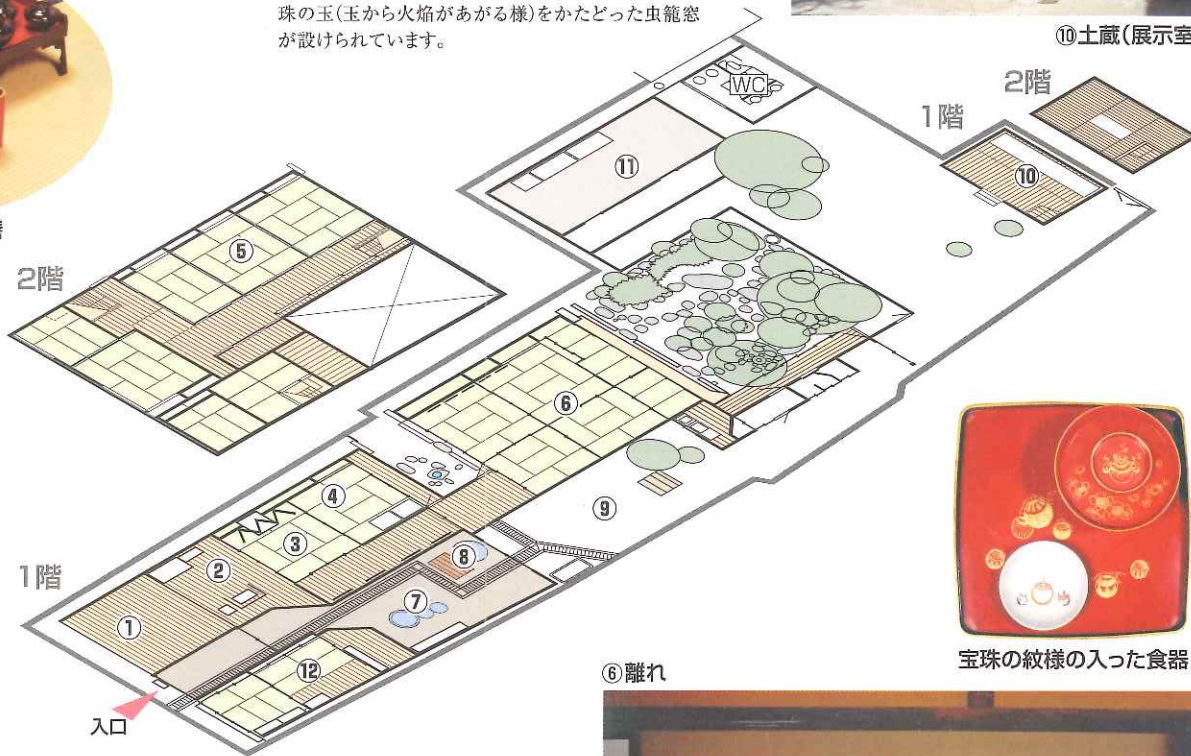


行書版「東海道五十三次 関」歌川広重画



旅籠で使われていた食器・食膳

- ①店の間
- ②帳場
- ③映像コーナー
- ④江戸時代の旅コーナー
- ⑤2階客室(企画展示室)
- ⑥離れ(特別展示室)
- ⑦土間
- ⑧風呂
- ⑨井戸端
- ⑩土蔵(展示室)
- ⑪納屋(収蔵庫)
- ⑫受付・事務室



①店の間



旅の持ち物



⑥離れ



宝珠の玉をかたどった虫籠(むしこ)窓

虫籠窓は、建物二階正面にある漆喰で塗籠めた堅格子の窓のこと。「玉屋」では、その屋号にちなんで、宝珠の玉(玉から火焰があがる様)をかたどった虫籠窓が設けられています。



⑩土蔵(展示室)

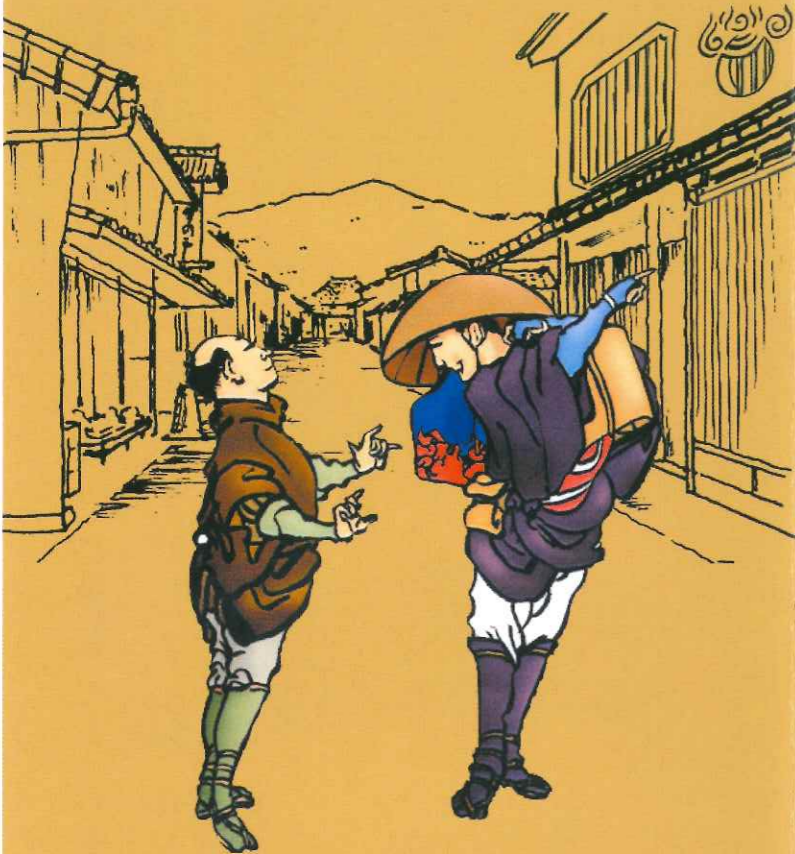


宝珠の紋様が入った食器

関宿

東海道五十三次の内

イラスト案内図



東海道関宿

関は古代から交通の要衝であり、古代三関のひとつ「鈴鹿関」が置かれていたところ。関の名もこの鈴鹿関に由来しています。

江戸時代には、東海道53次の江戸から数えて47番目の宿場町として、参勤交代や伊勢参りの人々などでにぎわっていました。現在、旧東海道の宿場町のほとんどが旧態をとどめない中において、唯一歴史的名町並みが残ることから、昭和59年、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

関宿の範囲は、東西追分の間約1.8キロメートル、25ヘクタールに及び、江戸時代から明治時代にかけて建てられた古い町家200軒あまりが残っています。

関宿では、これら歴史的建造物の保存・修復に努めながら、新しいまちづくりに取り組んでいます。

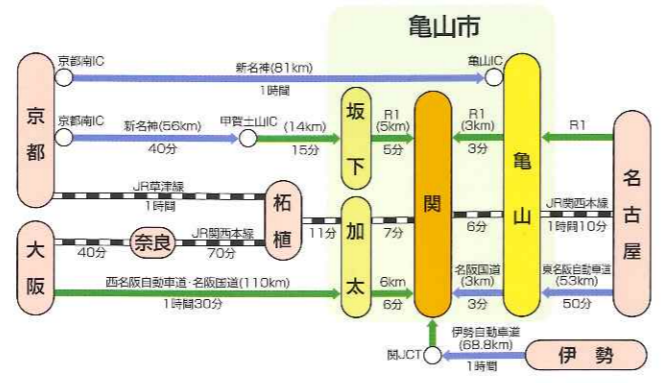
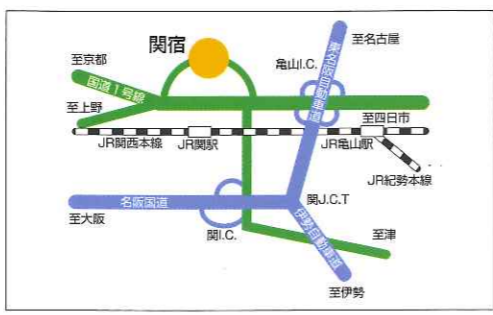


鈴鹿関跡

鈴鹿関が初めて歴史に登場するのは、天智天皇の死後、大友皇子と大海人皇子(後の天武天皇)が皇位を争った壬申の乱(672年)の際、大海人皇子が鈴鹿・不破の関を固めた事によります。延暦8年(789年)、桓武天皇によって三関は廃止されますが、その後は天皇の崩御や政変などが起こるたびに儀式としての固関が行なわれました。

鈴鹿関跡の詳細な位置や規模などははっきりとわかっていませんが、近年の調査により、聖武天皇によって整備されたと思われる西限の城壁が確認されています。

交通のご案内



見学される皆様へのお願い

- 関宿は、私たちの貴重な文化財であるばかりでなく、「生活の場」でもあります。見学にあたっては、特に下記の点にご協力下さい。
- 市が公開している資料館などを除き、むやみに家の中をのぞかないでください。
- 狭い道ですので、歩行中の安全には各自十分お気をつけください。
- くわえ煙草、吸い殻の投げ捨てなど、火気には十分お気をつけください。
- ゴミは各自お持ち帰りください。

亀山市民文化部
文化振興局
まちなみ文化財室
三重県亀山市関町木崎919-1
TEL 0595-96-1218
FAX 0595-96-2414

亀山市民文化部
関支所観光振興室
三重県亀山市関町木崎919-1
TEL 0595-96-1212
FAX 0595-96-2414



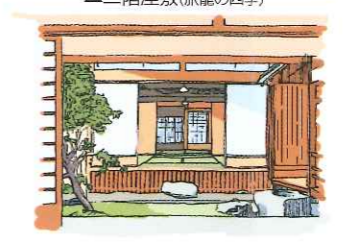
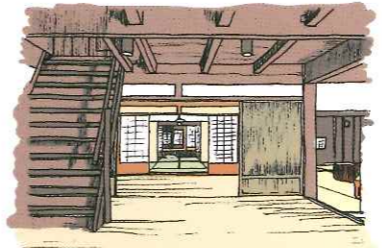
亀山市民文化部

玉屋

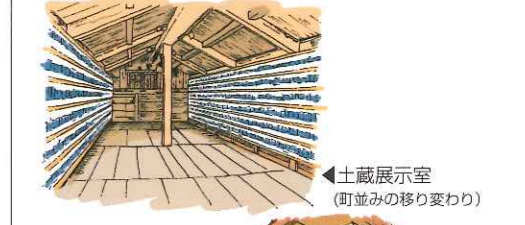
関宿旅籠玉屋
歴史資料館

- 入館料(二館共通券): 大人300(250)円 小人200(150)円 ※ ()内は30人以上の団体
- 休館日: 月曜日、年末年始(12/29~1/3)
- ☎0595-96-0468 FAX0595-96-0469

13 玉屋は「関で泊まるなら鶴屋が玉屋、まだも泊まるなら会津屋か」と謳われたほどの、関宿を代表する大旅籠のひとつです。江戸時代に建築された貴重な旅籠建築に、当時使われていた道具類や、庶民の旅に関する歴史資料などを展示して、江戸時代に栄えた旅籠の姿を再現しました。また、土蔵では「東海道五十三次」で有名な歌川(安藤)広重の浮世絵を展示しています。



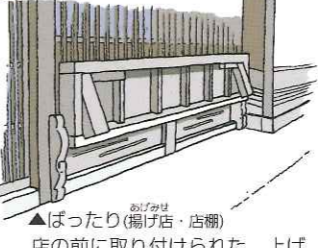
関まちなみ資料館



7 関宿の伝統的な町屋を公開した資料館です。関の文化財の紹介や、関宿に関する歴史資料などを展示しています。また、土蔵二階展示室では、町並み保存事業による町並みの移り変わりを一目で見ることができます。

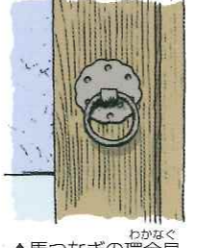
関宿の町屋の特徴

関宿の町屋は、最も古いものは18世紀中頃の建築で、明治時代中頃までのものが半数以上をしめます。平入の二階建が一般的ですが、二階前面を土壁で覆った塗籠のものが目を引きます。A

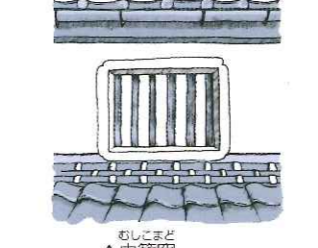


庇の下に取り付けられた幕板は、風雨から店先を守る霧除けです。座敷の前の出格子窓は、明治時代以降に取り付けられたものです。

店の前に取り付けられた、上げ下げができる棚のこと。商品を並べたり、通りを通る人が座ったりしました。



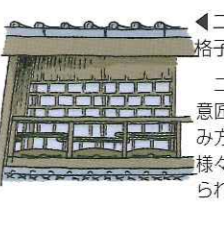
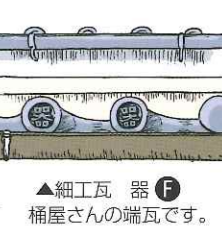
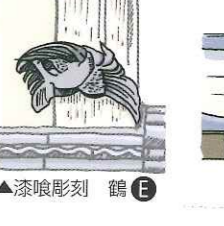
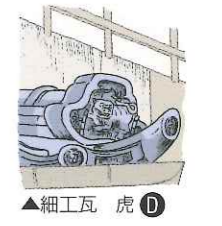
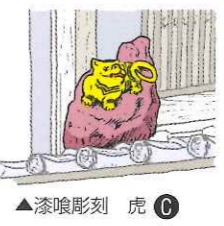
玄関の柱に打ち付けられた馬をつないだ環金具。土台などの低い位置にあるものは、牛をつないだものです。



町屋の正面二階にある、漆喰で塗られた堅格子窓のこと。関宿にはさまざまな形の虫籠窓があります。

町屋の細部意匠

関宿の町屋には、庇下の幕板、軒の持ち送りの線形、二階の虫籠窓や漆喰細工、起り屋根、格子、建具など、細部の意匠に工夫されたものが多くあります。特に、漆喰細工や瓦細工は、子孫繁栄・家運長久などを願って職人が技をこらして作ったものです。こうした様々な細部の意匠は、多くの人々が行き交った宿場町の町屋にふさわしいものといえます。



※1~21, A~Gは裏面の地図に対応しています。※1, 2, 7, 9, 10, 11, 18, 21はおすすりポイントです。

1 東追分 国指定史跡
 関宿の東の入口にあたる東追分は、東海道と伊勢別街道の分岐点です。大鳥居は伊勢神宮を参拝するためのもので、二十一年に一度の伊勢神宮式年遷宮の際、内宮宇治橋南詰の鳥居が移されてきます。常夜灯、道標なども残っています。



6 瑞光寺権現柿 市指定史跡
 瑞光寺は中世にこの地域を治めていた関氏ゆかりの寺です。境内にある権現柿は、徳川家康が関宿に立ち寄った時、賞味したと伝えられている柿の木です。



2 御馳走場
 関宿に出入りする大名行列の一行を、宿役人が出迎えたり見送ったりした場所です。関宿には四力所の御馳走場がありました。



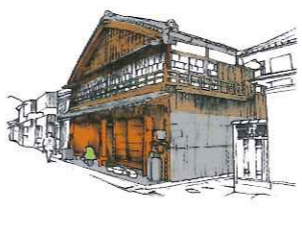
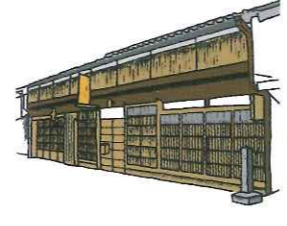
3 開雲楼と松鶴楼
 この二軒は関を代表する芸妓置店でした。東側の開雲楼を見るの鶴居や柱、西側の松鶴楼を二階手摺りや格子窓などにその面影を残しています。



9 山車倉
 「関の山」という言葉の語源にもなった関宿の山車は、最盛期には十六基ありました。互いに華美を競い、また狭い関宿を練ったことから生まれた言葉です。現在は四台の山車が残り、四力所に山車倉があります。



11 伊藤本陣跡
 関宿には、川北本陣、伊藤本陣の二軒の本陣がありました。本陣は、参勤交代の大名や、公家、公用の幕臣などが利用した格式の高い宿泊施設です。現在残るこの建物は、本陣の店部分にあたります。



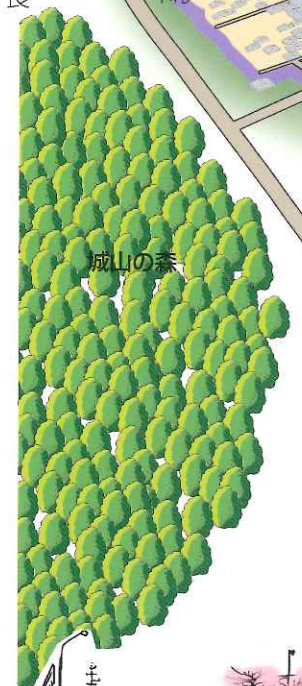
15 福蔵寺・小方の誓帯
 関の小方は孝女の仇討で知られ、鈴鹿馬子唄にもうたわれています。その墓と記念碑が福蔵寺境内にあります。



16 旧脇本陣の門
 福蔵寺裏門は、玉屋の向かいにあった秋屋脇本陣から移築したものです。



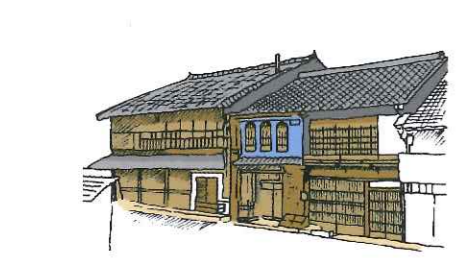
至京都 大津
 至上野 奈良



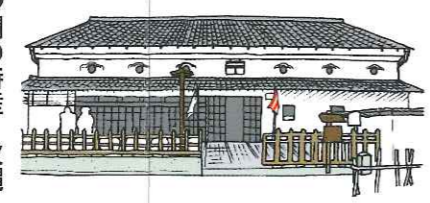
21 西追分・休憩施設 国指定史跡
 関宿の西の入口にあたる西追分は、東海道と大和・伊賀街道の分岐点です。石柱には「ひだりハいかやまとみち」とあります。また、休憩施設には、鈴鹿関跡の調査成果がパネル展示してあります。



20 関の特産・火縄
 江戸時代の関宿の特産物として火縄があり、新所を中心に数千軒の火縄屋がありました。火縄は鉄砲に用いたため大名の御用がありました。道中の旅人が煙草などに使うために購入したため大いに繁盛しました。



19 地蔵院前の町並み
 「会津屋」は関宿を代表する旅館のひとつです。もとは山田屋と言われ、小方が育ったことで知られています。二階に洋風意匠の窓がついた「洋館屋」、米をつく水車の音から名付けられたという「川音」、伝統のある鍛冶屋など、特色のある町屋が並んでいます。



14 高札場跡 関郵便局
 関宿のほぼ中心にある関郵便局は、江戸時代には高札場があったところです。



17 停車場道
 明治23年、四日市と草津を結ぶ関西鉄道が開通した時、関停車場への道として整備されました。「ステーション」と呼ばれていたそうです。



18 地蔵院 国指定重要文化財(建造物)
 「関の地蔵」に振袖着せて、奈良の大仏に取る」の俗謡で名高い地蔵院。天平13年(741)行基菩薩の開創と伝えられています。近郷の人々に加え、東海道を旅する人々の信仰を集め、現在でも多くの参拝客でにぎわっています。境内の本堂・鐘楼・愛染堂の三棟が国の重要文化財(建造物)に指定されています。



10 百六里庭・眺関亭
 関宿の町並みの中に生まれた小公園。関宿が江戸から百六里余りにあることから名付けられました。通りに面した建物「眺関亭」からは、関宿の家並みが一望できます。



5 旧川北本陣の門 市指定文化財(建造物)
 延命寺山門は、旧川北本陣の門を移築したものです。

「道の駅」関宿
 国道1号沿いに位置し、観光案内所をはじめ、特産物の販売コーナー、軽食コーナー、また道路情報提供装置を備えた休憩施設などがあります。

JR関西本線
 JR関駅(関宿ふるさと会館)
 関交番・関検問所



至名古屋
 東追分 1

至名古屋
 木崎町

至関インターチェンジ

関宿ワークショップについて

(一社)三重県建築士会青年委員会

■メインテーマ：関宿を未来につなぐ

■日時：平成31年2月24日（日） AM9:00～11:30（150分）

■場所：亀山市文化会館 コミュニティセンター

■主旨：三重県唯一の重要伝統的建造物群保存地区である、「関宿」は古来から東海道の宿場町として栄え、また大和街道、伊勢別街道が分岐する追分でもあり、多くの旅人が行き交い、交わる場所でもありました。東海道の多くの宿場町が旧態をと留めていない中、関宿は当時の賑わいを彷彿とさせる町並みを今に残しており、この美しく貴重な町並みは、これからもまた後世に伝えられ、時代を繋いでいく事が望まれます。

そこで、建築士会東海北陸ブロック会青年建築士協議会のブロック大会が亀山の地で開催されることから、多くの青年建築士が集まる折角のこの機会に、関宿の町づくりを考えるワークショップを開催することとなりました。

今回は市民・中学生・大学生の方々にもご協力いただき、市民と学生と建築士が同じテーブルで、未来の関宿の町づくりについて語り合います。実りあるワークショップとなりますよう、市民・中学生の方々には事前記入シートを、建築士・大学生の方々には事前調査シートを記入して頂き、関宿の魅力・資源、各地域の実践例・方法論を持ち寄り、それを基にしてこれからの関宿の町づくりを語り合おうと考えています。

実際の街づくりの場で活動されている方々の話をお伺いできるのは、建築士にとっても大きな財産であります。また、また各地域で活躍されている建築士のみなさんのお話は、関宿の街づくりの大きなヒントになるかもしれません。

この亀山の地で、市民と建築士と一緒に未来の街づくりに向けて、大いに夢を語り合しましょう！

■スケジュール

9:00		
↓	ワークショップの説明	【 10分 】
9:10		
↓	ワークショップ ①	【 40分 】
	ワークショップ ②	【 40分 】
10:30		
↓	休憩	【 10分 】
10:40		
↓	発表	【 40分 】
11:20		
↓	講評 NPO法人東海道関宿保存会 清水 孝哉 会長	【 5分 】
11:25		
↓	総評 青年建築士協議会運営委員長 坂崎 有祐	【 5分 】
11:30		

■ワークショップ①の内容

- ・テーマ別のグループ（5テーマ、10グループ）に分かれます。
- ・関宿における実際の現場での現状、問題点を市民の方々に教えていただきます。
- ・東海北陸7県にある実際の街づくりの実践例や、方法論を出し合います。
- ・その中から、関宿に合った例を抽出します。

■ワークショップ②の内容

- ・ワークショップ①で抽出した内容を踏まえて皆さんで話し合い、関宿で実践するならば、どのような形で実現しそうか、関の地域性・魅力や課題点を具体的に話し合い、一つの提案としてまとめます。

■ワークショップ参加者の位置づけ

参加者の役割・位置づけ

市民	関を代表して関の魅力や現状を伝え、町づくりを考え、実践する。	NPO会員	実際に現地で町づくりを実践している立場から、関の現状や魅力を伝え、関の魅力を再発見し、町づくりの方法を考える。
		中学生	将来の町づくりの担い手として、関の未来への夢を伝え、関の魅力を再発見した上で、大人と一緒に町づくりへ参加する。
建築関係	専門的立場から町づくりの方法論を伝え、町づくりを実践する。	建築士	職業を活かした専門的立場から町づくりの方法論を市民に伝え、市民の声に耳を傾け、より良い方法論を提案する。
		大学生	学問・研究を通じ、学術的立場から町づくりの方法論を市民に伝え、若い立場から先進的な町づくりの方法論を提案する。

■発表について

- ・②でまとめた提案を各グループに発表して頂き、参加者全員ですべての提案を共有します。
- ・発表者はグループ内で決定します。（複数人でも構いません）

■テーマについて

関宿の現状から抽出した5テーマを10グループに振り分け（1テーマにつき2グループ）、各テーマについて、グループ内で話し合ってください。

事前に、建築士・大学生の皆様へ、各地域の実践例や、また建築士が考える方法論を、市民・中学生の皆さんには、関宿の現状や魅力を用意して頂き、発表して頂きます。話し合ってください。テーマは以下に示す5テーマとします。

ワークショップで話し合われる内容は、市民・中学生の皆様にとっては、そのまま町づくり活かせる内容ばかりではないかもしれません。しかしながら、今後、実際の町づくりの場において、今回話し合われたことが、何かのヒントになれば、また、関宿の魅力を見つめ直す良い機会となればと考えています。

また、建築士・大学生の皆様にとっては、建築に直接繋がるものばかりではないかもしれません。しかしながら、まちづくりの現場で起こる諸問題は、知っておくべき・考えておくべき事柄のように思われます。そして、それは私たちが建築活動を行う際に、大きなヒントとなることとも思われます。地域の在り方に真っ向から向き合えることで、我々地域に根差す建築士は、その存在意義を大きくすることが出来ることでしょう。

テーマ① 『定住・移住』 関宿に住み続けることと、関宿に住みたい人に向けて

関宿では、保存地区での住民の高齢化が大きな問題となっています。若年層は他地域へ移住されたり、また同じ地域内に住まわられている方も保存地区外に新しく家を建てられ、地区を離れられる方が多くいらっしゃいます。

地域の若い世代の方々が、保存地区にそのまま定住されるための方法をみんなで話し合しましょう。

また、関宿の魅力に惹きつけられ、関宿に移住をされる方もいらっしゃいます。そして、これから、移住促進への機運も高まることと思われます。

しかしながら、移住者が増加するほどに、元の住民の方々との問題も発生することも考えられます。

住んでいる人と住みたい人がうまく共栄できる方法を、他地域の実例・諸問題も踏まえつつみんなで話し合しましょう。

テーマ② 『空き家』 空き家を活用するためには

関宿には現在、10%程度の空き家があると考えられます。実際のところ、空き家バンクもなかなか活用されていないのが実情です。現代の建物とは異なる、古い建物に住むこと、活用することは容易なことではありません。しかしながら、他地域においては、いろいろな方法も実践されていることと考えられます。

空き家を少しでも活用されていく方法をみんなで話し合しましょう。

テーマ③ 『観光』 観光化はまちを活性化させるのか

関宿は、多くの観光資源を持ちながら、あまり観光化されていない伝建地区でもあります。そこには、住まわれている方々に、観光化を望まない方もいらっしゃるかもしれません。

そこで、関宿の観光化を目的とするのではなく、実例等をあげて、観光化して良かったこと、問題となったこと、または、観光化せずとも街を活性化させた実例等を持ち寄り、関宿に合った方法をみんなで話し合しましょう。

テーマ④ 『保存・防災』 保存とメンテナンス、そして有事に向けての取り組み

古い町並みを守り続けることは、技術・暮らし・お金など、容易なことではありません。制度の問題もありますが、まずは、建築士レベル、市民レベルでどのような方法があるか実例を取り上げつつ探りましょう。

町並み受け継がれていく事は、技術の継承、人の繋がりともなります。建築士が最も活躍できる分野ですから、より実践的な方法をみんなで話し合しましょう。

関宿は古い平入の木造建築物が密集して軒を連ねています。火事や地震といった有事の際には、大きな被害を受けることも予想されます。

防災については、予防と有事の場合に向けての準備、また有事の際の行動といった両極を考えることが重要です。

ハード面での問題もありますが、まずは市民レベルでどのような防災への取組が行えるか、実例も参考にしながら話し合しましょう。

テーマ⑤ 『誇り・子供達へ』 住む事への誇りと、未来を担う子供たちへ

外から見ると、美しい関宿のまちで暮らすことができるのは羨ましくさえもありますが、実際に住まわれている方にとってはそれが日常であり、住むことを誇りに感じていない住民の方もいらっしゃるようです。住民の方々が、関宿で暮らすことを誇りに感じていただければ、定住にもつながり、まちの活性化にも繋がることでしょう。

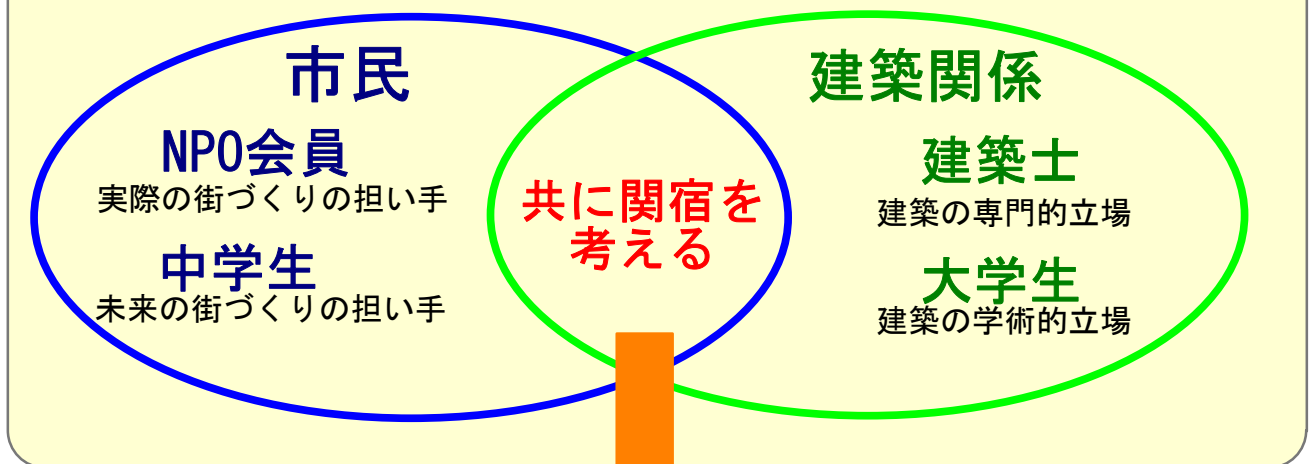
住民の方々に関宿での暮らしを誇りに感じてもらえるような取組や方法をみんなで話し合しましょう。

関宿に限らず、地域の将来を担うのは子供達です。関中学校は関宿の町並みを建築で再現し、関の子供たちは景観への意識が高いことと思われまます。

関の子供たちに向けて、関宿の魅力をどう伝えていくか、そして、まちづくりにどのように子供たちが参加していけるのかを、各地域の実践的な取組を参考にして、みんなで話し合しましょう。

関宿ワークショップのねらいとゴール

立場の違う参加者



共通する想い

関宿の町並みを **保存・活用** し、**活性化** させることで、
関宿の町並みを **未来につなげたい**。

ワークショップ①

町並み保存、関宿の課題は様々…まずは、

課題を拾い上げるのではなく **アイデア** (**実例・方法論・町の魅力**) を
持ち寄り、発表する。

ワークショップ②

アイデアを具体的に **関宿色** にまとめる。

シナリオ 関宿の **資源・課題** × 持ち寄った **実例・方法論**
= 関宿の **町づくりの方法**

本ワークショップ
参加者が、
町づくりの **方法** や
課題を **共有** する。

ワークショップ後
市民 実際の町づくりの場でアイデアを
活かす、魅力を **再発見** する。
建築関係 それぞれの地域でアイデアを
実践・活用 する。

ワークショップのルール

- ① 他の方の発言をよく聞きましょう。
- ② 他の方の発言を否定しないようにしましょう。
- ③ 1回の発言は2分以内としましょう。
- ④ 結論を急がないようにしましょう。

- 聞きたいことは言いたいことの中にあります。
- 少しでも沢山の人の意見を聞くために、発言は出来るだけ手短かに。
- 結論は出すものではなく、出るものです。
- 難しく考えず、楽しく自由に語り合きましょう。

関宿ワークショップ事前調査シート 【建築士・大学生】

平成31年2月24日

下記をご記入の上、ワークショップ当日にご持参ください。

空欄にご記入ください。□については当てはまる箇所にレ点、若しくは■を記入してください。

ふりがな	
氏名	
所属	<input type="checkbox"/> 愛知県 <input type="checkbox"/> 静岡県 <input type="checkbox"/> 岐阜県 <input type="checkbox"/> 福井県 <input type="checkbox"/> 石川県 <input type="checkbox"/> 富山県 <input type="checkbox"/> 三重県 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> その他 ()

①	テーマ	<input type="checkbox"/> A.定住・移住 <input type="checkbox"/> B.空き家 <input type="checkbox"/> C.観光 <input type="checkbox"/> D..保存・防災 <input type="checkbox"/> E.誇り・子供達へ
---	-----	---

②	提案の種類	<input type="checkbox"/> 事例 <input type="checkbox"/> 方法論 <input type="checkbox"/> その他 ()
---	-------	--

テーマに応じた各地の事例を調査・提案される方は「事例」にチェックしてください。
 個人が考える方法論を提案される方は「方法論」にチェックしてください。
 どちらにも当てはまらない方は「その他」にチェックしてください。

③	事例の場所	
---	-------	--

②で事例とお答えした方は具体的に記入してください。その他の方は必要に応じて記入してください。（例：石川県金沢市ひがし茶屋街伝建地区）

④	事例の 具体的内容 又は方法論	
---	-----------------------	--

具体的にご記入ください。書ききれない場合・複数ある場合は別紙にご記入いただき枠内に「別紙参照」とお書きください。別紙も当日合わせてご持参ください。（書式不問）

⑤	事例・方法論 による 効果	
---	---------------------	--

あなたが考える効果、又は実際にあった効果を具体的にご記入ください。書ききれない場合は④と同様とします。

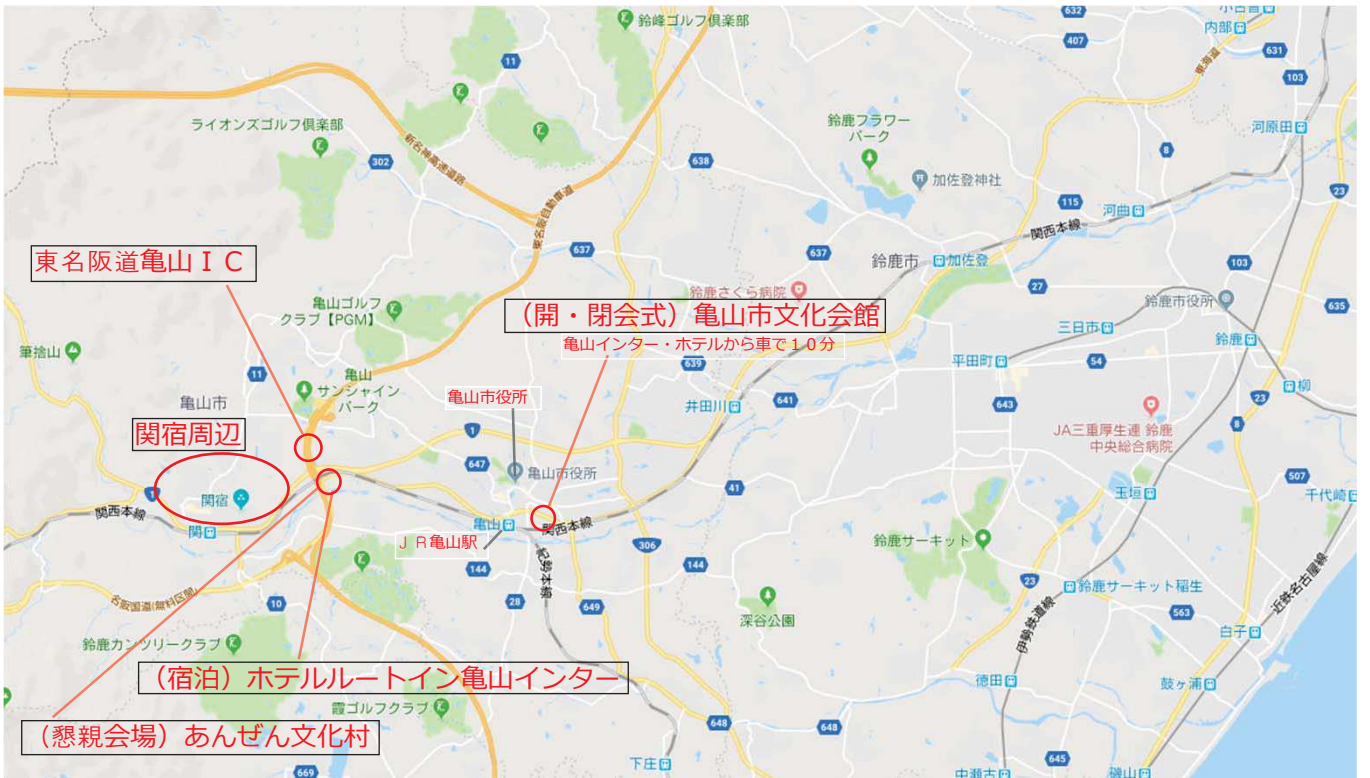
■ 事前調査シート作成にあたって

- ・今回のワークショップは、関宿地元市民の方々にご協力いただき、ワークショップに参加して頂く予定です。実りあるワークショップとなりますよう、事前の調査シート作成へのご協力を何卒よろしくお願い致します。
- ・事例については、町並み保存の実例や町づくりの実例はもとより、テーマに活かせるような町づくり 以外の実例でも構いません。ワークショップは自由な意見を述べ合う場です。自由な発想で実例をお持ちいただきますようお願い致します。
- ・方法論について、建築に携わられている皆様は、町づくりに対して様々な考えをお持ちであることと思います。折角の機会ですから、実例を伴わなくとも、ご自身の持つ方法論を自由にご記入ください。
- ・ワークショップ当日は、この調査シートを基に発表をして頂く予定です。調査シート以外の補足資料をご用意される方は、当日合わせてご持参ください。
(発表での持ち時間が少ない為、簡潔で分かりやすい資料として下さい。)
- ・お持ちいただいたこのシート及び資料は今後の関宿の町づくりに活かすため、当日、当会にて回収させていただきます。ご自身でも保管されたい場合は、お手数ですがコピーされたものをご用意いただきますようお願い致します。

参加される皆様におかれましては、業務・学業等お忙しい日々をお過ごしのことと存じますが、ワークショップの円滑な進行のため、事前に調査シート作成へのご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

(一社) 三重県建築士会青年委員会

【亀山市・関宿全体地図】



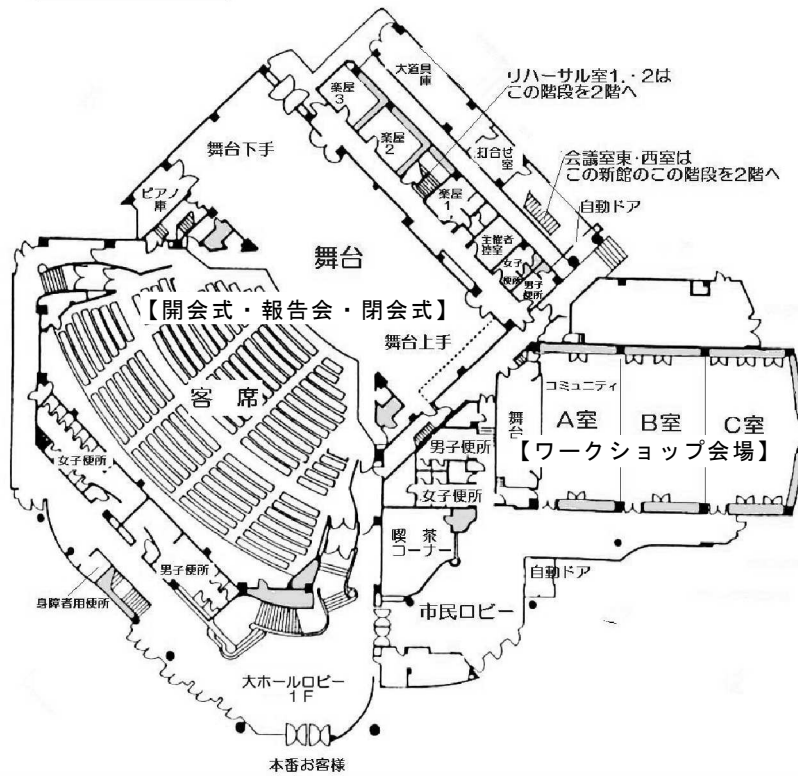
【会場案内】



亀山市文化会館
三重県亀山市東御幸町63番地
TEL : 0595-82-7111

建物全景

1階平面図

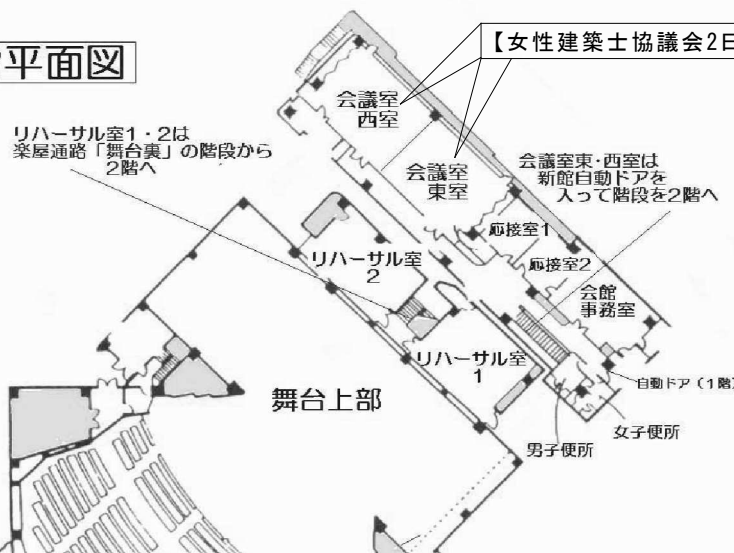


大ホール 客席947席
【開会式・報告会・閉会式】会場



中央コミュニティセンター 400名収容
【ワークショップ】会場

2階平面図



会議室 100名収容
【女性建築士協会2日目会議】会場



ドライブイン あんぜん文化村
三重県亀山市太岡寺町1170
TEL: 0595-83-1234

建物全景



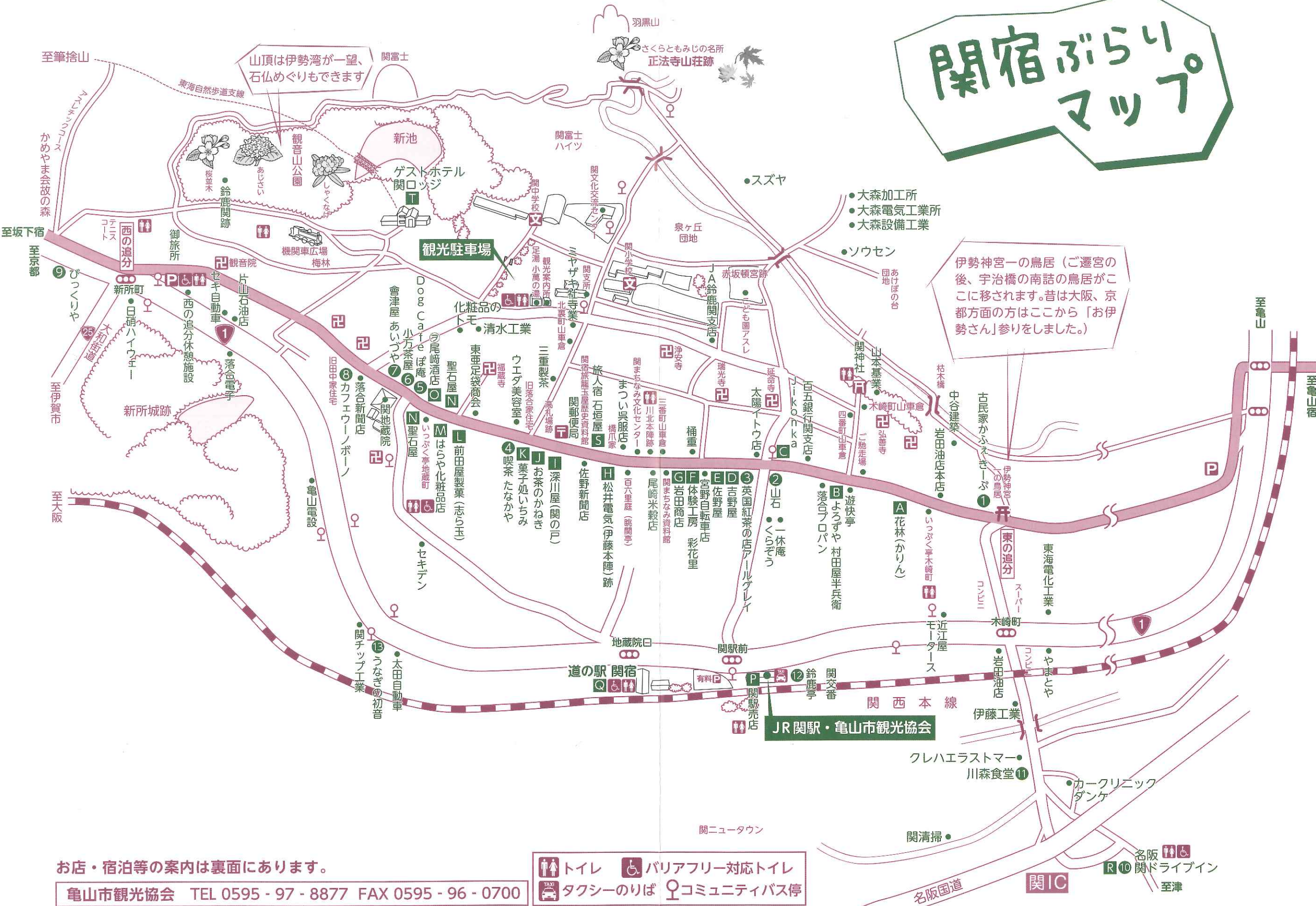
団体予約席 300席
【懇親会】会場



ホテルルートイン亀山インター
三重県亀山市太岡寺町字下谷1195-9
TEL: 0595-84-7611

青年建築士協議会・女性建築士協議会【宿泊】

関宿ぶらりマップ



山頂は伊勢湾が一望、石仏めぐりもできます

さくらともみじの名所
正法寺山荘跡

伊勢神宮一の鳥居（ご遷宮の後、宇治橋の南詰の鳥居がここに移されます。昔は大阪、京都方面の方はここから「お伊勢さん」参りをしました。）

お店・宿泊等の案内は裏面にあります。
 亀山市観光協会 TEL 0595 - 97 - 8877 FAX 0595 - 96 - 0700

- トイレ
- バリアフリー対応トイレ
- タクシーのりば
- コミュニティバス停

- 大森加工所
- 大森電気工業所
- 大森設備工業

●ソウセン

観光駐車場

JR 関駅・亀山市観光協会

クレハエラストマー
川森食堂

名阪 10 関ドライブイン
至津

関IC

名阪国道

関ニュータウン

関清掃

カークリニック
ダンケ

モーターハウス

近江屋

スーパー

コンビニ

東の追分

伊勢神宮一の鳥居

古民家かふえぎーぶ

中谷建築

枯木橋

木崎町山車倉

山本基業

関神社

あけぼの台

子ども園アスレ

JA鈴鹿関支店

赤坂頓宮跡

泉ヶ丘団地

スズヤ

関文化交流センター

関富士ハイッツ

新池

関富士

羽黒山

至亀山

至亀山宿

至筆捨山

至京都

至伊賀市

至大阪

かめやま会故の森

至坂下宿

至筆捨山

至京都

かめやま会故の森

至坂下宿

かめやま会故の森

至京都

かめやま会故の森

至京都

かめやま会故の森

至京都

かめやま会故の森

至京都